令和４年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
（地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業）
成果報告書

団体名		公益財団法人出雲市芸術文化振興財団
施設名		出雲市民会館
助成対象活動名		公演事業・人材養成事業・普及啓発事業
内定額(総額)		10,207 （千円）
	公演事業	1,987 （千円）
	人材養成事業	7,357 （千円）
	普及啓発事業	863 （千円）

（１）令和４年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	出雲フィルハーモニー交響楽団第 25 回定期演奏会	R4.9/19（月・祝）	演目：歌劇《劇場支配人》序曲ほか 出演：中井章徳〈指揮〉、梶田彩加〈ソプラノ〉、野津良佑〈テノール〉ほか	目標値	862
		出雲市民会館		実績値	428
2	出雲オペラ神在ガラコンサート	R4.10/30（日）	演目：《マタイ受難曲》　ほか 出演：狩野麻実〈ソプラノ〉、森田麗子〈アルト〉　ほか	目標値	273
		ビッグハート出雲		実績値	236

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

（２）令和４年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程 主な実施会場	概　要 （演目、主な出演者、スタッフ等）	入場者・参加者数	
1	出雲芸術アカデミー事業	R4 年 4 月 ～ R5 年 3 月	指導者：出雲芸術ｱｶﾃﾞﾐｰ講師	目標値	440 人（受講者数）
		出雲市民会館ほか		実績値	356 人（受講者数）

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

（３）令和４年度実施事業一覧【普及啓発事業】

<table>
<tr><th rowspan="2">番号</th><th rowspan="2">事業名</th><th>主な実施日程</th><th rowspan="2">概　要
（演目、主な出演者、スタッフ等）</th><th colspan="2" rowspan="2">入場者・参加者数</th></tr>
<tr><th>主な実施会場</th></tr>
<tr><td rowspan="2">1</td><td rowspan="2">出雲フィルハーモニー・アウトリーチ事業「音楽と音楽家の出前 2022」</td><td>R4 年 9 月
～
R5 年 2 月</td><td rowspan="2">高畑壮平、井川晶子、福田悠子、藤江千夏（ヴァイオリン・ヴィオラ）ほか</td><td>目標値</td><td>1,550 人</td></tr>
<tr><td>市内保育所・幼稚園
ほか</td><td>実績値</td><td>1,831 人</td></tr>
<tr><td rowspan="2">2</td><td rowspan="2">出雲神話ってなあに？
交響神樂の原風景を訪ねて</td><td>R4.12/3（土）</td><td rowspan="2">ナビゲーター：平野一郎（作曲家）
ゲスト：平野芳英（考古学者）、中井章徳（指揮者）</td><td>目標値</td><td>200 人
（100 人
×2 回）</td></tr>
<tr><td>大社文化プレイス
うらら館</td><td>実績値</td><td>※110 人
（110 人
×1 回）</td></tr>
</table>

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

２．自己評価

（１）妥当性

自己評価
社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。
１　ミッション 優れた文化芸術の鑑賞機会と文化芸術活動への市民参加の促進 　新型コロナウイルス感染症や大型台風の影響で、一部、事業規模の縮小等を余儀なくされたが、継続的且つ臨機応変な対応で事業実施に努め、芸術文化活動への市民参加の機会創出に寄与することができた。 青少年の心と文化芸術の担い手の育成 　出雲芸術アカデミー事業の講座では、幼少期から芸術文化活動に参加できる環境を創出することで、次代の担い手の育成に努めた。 文化芸術関係団体等との連携と共生社会の推進 　出雲芸術アカデミー事業、各種演奏会及びアウトリーチ活動等、多様な事業を教育機関や各種文化団体及び市民の参加・協力を得て取り組んだ。 　アウトリーチ事業は、2021 年度は中止していた保育所と幼稚園を再開して実施することができた。一方、障がい者、高齢者施設や病院等からの要望もあり、社会的弱者とされる人達に芸術文化に触れてもらう絶好の機会と考える。
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
文化的意義 　幼児から高齢者まで音楽を学べる「出雲芸術アカデミー事業」や、成果を発表できる公演事業の実施は、地域の実演家や愛好家のレベルアップにつながっている。 社会的意義 　出雲芸術アカデミーの各種講座や市民参加型の演奏会の実施または、アウトリーチ事業により、様々な環境下にある幅広い世代の市民が芸術文化活動に親しめる環境を整えることで、芸術文化を通じた、多様な価値観が尊重される潤いと活力あるまちづくりに寄与している。 経済的意義 　事業全般を通じて、楽器店や舞台、メディア関係業等への経済効果があったほか、近隣の宿泊施設や飲食店の利用促進も図られた。

（２）有効性

自己評価
目標を達成したか。

1 公演事業（公 1）出雲フィルハーモニー交響楽団第 25 回定期演奏会（公 2）出雲オペラ神在ガラコンサート

【目　標】

（公 1）大型台風の直撃で、直前まで公演実施（中止）の判断が困難であったため、午後の本番中止を考慮し、比較的安全だった午前中のゲネプロを公開するなど、臨機応変な対応が取れた。

（公 2）新型コロナウイルス感染症の影響で中央からのソリスト招致等は断念せざるを得なかったが、地元ソリストを中心に難曲とされる「マタイ受難曲」が披露でき、地域文化力の向上を実感することができた。

【指　標】	【目標値】	【対象事業】	【実　数】	【達成状況】
A 入場率を 80%まで増加させる	103%	（公 1）	39%	49%
		（公 2）	77%	96%
B 20～30 歳代入場率	85%	（公 1）	14%	105%
C 事業内容貢献度	9 P	（公 1）	8.3 P	92%
		（公 2）	9 P	100%
D 顧客満足度	85%	（公 1）	87%	102%
		（公 2）	82%	96%
E 障がい者割引（iphil 割）制度の利用者数	5 人	（公 1）	2 人	40%

2 人材養成事業

【目　標】

安心して音楽を学び続けられる魅力的な講座運営に取り組み、次代の文化芸術の担い手としての演奏者・指導者・鑑賞者の一体的な養成を目指す。⇒指導者会、運営会議の定期的な開催を実施し、ブラッシュアップした講座の開催、指導者育成、演奏会等による鑑賞者の育成に努めた。

アカデミーで学んだ子供達が進学等で出雲の地を一旦離れても、将来、就職や音楽活動を通じて、出雲で文化芸術を育てていけるような学びの場となるよう寄与する。⇒川本演奏旅行や Vn 講座指導助手としての OG 参加。

【指　標】

講座実施回数

【指　標】	【目標値】	【実　数】	【達成状況】
A 講座実施回数	234 回	232 回	99%
B 受講者数	440 人	356 人	80%

3 普及啓発事業（普 1）アウトリーチ事業（普 2）神話ってなあに

【目　標】

（普 1）受入側の細かな希望を取り入れる体制を確立し、より充実した内容で実施できた。また、アウトリーチ体験者にコンサートに来てもらい、劇場とアウトリーチ先の関係性の強化につながった。

（普 2）出雲オリジナルの交響曲と「出雲神話」を関連付けながら、作曲家、考古学者、指揮者の視点から出雲を考えるセミナーは多くの気付きをもたらし、当地のアイデンティティを喚起する機会とすることができた。

【指　標】

【指　標】	【目標値】	【実　数】	【達成状況】
A アウトリーチ実施回数	20 回	20 回	99%
B コンサート来場数	650 人	356 人	80%
C 神話ってなあに来場数	100 人	110 人	110%

（３）効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事　業	当初事業期間	確定事業期間	自己評価
公 1	2022．9/19	同　左	出雲芸術アカデミーで取り組む講座内容を調整しながら、ソリストオーディション等の準備期間も計画通りに実施できた。
公 2	2022．10/30	同　左	新型コロナウイルス（第七波）の影響で、出演者や演目の変更等計画通りにならない部分もあったが、本番は予定通りの日程で開催できた。
人	2022．4/1 ～ 2023．3/31	同　左	公演事業とリンクさせながらほぼ予定通りの講座を開催できた。演奏旅行は開催地の変更があったが調整し予定通り実施できた。
普 1	2022．9～ 2023．2	同　左	アウトリーチ、コンサート共に適切な募集期間や準備期間を設け、予定通り実施できた。
普 2	調整中	2022．12/3	新型コロナウイルスの影響で 2 企画中 1 企画の実施となったが、適切な準備期間を設け、予定通り実施できた。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事　業	予　算（円）	決　算（円）	変更が生じた事象及び要因
公 1	3,296,000	2,908,746	－
公 2	1,791,000	1,063,549	対象経費の 20%を超える支出減 新型コロナウイルスの影響による公演内容の見直し
人	19,388,000	15,367,885	対象経費の 20%を超える支出減 新型コロナウイルスの影響による事業内容の見直し
普 1	2,360,000	2,429,669	－
普 2	482,000	393,476	－

（４）創造性

自己評価
地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。
１　資源について （1）キーパーソン 出雲芸術アカデミー芸術監督（中井章徳氏） 　芸術アカデミー創設以来、主に管弦楽に関して「音楽のまち出雲」を牽引してきている。第 21 回マスタープレイヤーズ国際音楽コンクールで指揮部門最高位の名誉ディプロマ賞及び全部門の最優秀者に贈られるマスタープレイヤーズ大賞を受賞。このほか出身地倉敷市の芸術文化栄誉章や出雲市市民文化賞等を受賞。現在、京都市立芸術大学大学院博士課程作曲・指揮領域でさらなる勉学に励んでいる。現在 46 歳。 コンポーザー・イン・レジデンス（平野一郎氏）及びアーティスト・イン・レジデンス（唐谷裕子氏） 　中井芸術監督の構想により、両者は出雲芸術アカデミーの事業に関わっている。 （2）出雲市民会館の建物設備 　県内市町村では最大規模の施設で、迫りや仮設花道、また、所作台・松羽目、定式幕等を常備し、古典芸能をはじめ本格的な舞台公演ができる。2007 年にロビー・ホワイエの増床等を行い来場者に親しみ易い空間となった。 ２　事業について 公演事業 ・出雲フィルハーモニー交響楽団定期演奏会 　台風の影響により開催が危ぶまれたが、急遽ゲネプロの公開を行い、結果として公演も予定どおり実施できた。創設 25 周年としての新たな企画としてソリストの公募を行ったが、想定を超える数の応募があり注目度が高まった。オーディションの実施や公演に助成を活用できたことは、山陰ゆかりの若い音楽家の発掘と紹介に役立った。 ・出雲オペラ神在ガラコンサート 　新型コロナウイルス（第七波）の影響により、当初予定していたプロのソリストの招致は取り止め、地元の実演家が中心となった演奏会に変更したが、難しい演目として演奏会では敬遠されがちな「マタイ受難曲」を解説付きで紹介するなど充実した内容で上演できた。助成を活用し、継続してオペラを上演してきたことで、着実に地域文化力は向上しているものと考える。 人材養成事業 ・講座運営事業 　幼児から社会人までを対象に年間を通じて管弦楽、合唱、邦楽等の音楽講座を行い、その成果発表として出雲市民会館を中心に各種コンサートを実施している。また、指導者（約 30 名）も年間を通じて行う学術研究会等に参加し学んでいくことが、その条件となっている。 普及啓発事業 ・アウトリーチ事業 　一方的ではなく双方向の関係を生み出すため、アウトリーチ先の参加者に鑑賞してもらうコンサートを、昨年度に引続き実施した。 ・神話ってなあに 　当財団が取り組んでいる委嘱作品《連作交響神樂》とその作品のテーマの一つとなっている出雲神話の世界を作曲家自身がナビゲーターとなり、考古学者と指揮者をゲストに迎え三つの視点から解説。演奏家にとっても出雲市在住者にとっても多くの学びが得られた。

自己評価
地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。
「音楽のまち出雲」は、以前より市内において人口に膾炙していたが、平成 22 年度に新たに制定された「出雲市芸術文化振興指針」で正式に位置付けられ、その際、芸術アカデミーは出雲の音楽活動の推進役として位置付けられた。出雲市の芸術文化振興施策を協議する出雲芸術文化振興会議の事業評価において、芸術アカデミー関係事業は高い評価を得ている。 情報発信の取組として、平成 30 年度に行った財団ウェブサイトの刷新や、それに伴う財団の公式フェイスブック及びツイッターの開設、また、芸術アカデミーだよりの発行等は継続して更新・発行を行っている。 出雲芸術アカデミー創設以来の本科（小学生から高校 2 年生）修了生は 166 名を数え、プロのプレーヤーとして活動している者や、県内の小・中・高校の教師、出雲芸術アカデミーの講師として、地元の音楽振興に寄与している者も増えている。また出雲フィルハーモニー交響楽団の演奏会に修了生が多数出演するなど、芸術アカデミーの成果は着実に表れている。 これら修了生がアカデミー修了後もアカデミーの発展に寄与できるよう、令和元年度に「出雲芸術アカデミー本科 OB・OG 会」を立上げた。（会員数 20 名：R2．3 現在）（会員数 23 名：R3．3 現在）（会員数 25 名：R4．3 現在）

（５）持続性

自己評価
事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
人事戦略 劇場・音楽堂等の機能強化に資する事業運営のノウハウを他職員に伝え、組織全体で、その層を厚くしていくよう人事異動を計画的に進めている。 正規雇用率 この 5 年間の推移は約 60%で、数値が低下しないよう努めている。 人材配置、組織内部でのキャリアパス 文化事業部の管理職は 3 名と財団組織では最多であり、文化事業部係長経験者を同管理職に昇任させている。また、平成 31 年度は芸術アカデミーの受講経験者を新規採用し、文化事業部に配置した。 劇場・音楽堂間のネットワークの形成 出雲 Jr.フィルの交流演奏会を県内外の劇場と実施している（H27 島根芸術文化センターグラントワ・H29 東広島芸術文化ホール・R4 悠邑ふるさと会館）。また、スキル向上の取組として、人材養成交流事業のなかで、当財団職員を先進施設（千葉県文化会館等）に派遣し、ノウハウの吸収やネットワーク造りに努めてきた。また、アートマネジメント人材育成講座の実施や島根県民会館の地域アーティスト発掘公演との協働などを通じて人材の育成に努めている。 教育機関とのネットワーク形成 これまで「出雲の春音楽祭」や「出雲 Jr.フィルコンサート」に市内小中学校から多くの生徒が参加しており、また、市内小中学校も対象としてアウトリーチ事業を展開している。なお、出雲市教育委員会管理職も芸術アカデミー推進委員に参加している。 安定的な収益基盤と財源確保の取組 出雲市から指定管理料のほか、出雲芸術アカデミー事業等のソフト事業に対しては負担金を受けており、財団及び芸術文化事業の安定的な収益基盤となっている。 その他の資金の種類 出雲 Jr.フィルの活動に対して支援金制度を設けており、この数年の金額等は H30（240 千円、90 件）、H31（656 千円、142 件）、R2（255 千円、142 件）、R4（136 千円、28 件）である。※R3 はコロナで無。 資金調達の手段 出雲芸術アカデミー講座運営事業では、高額にならないよう配慮しながら受講料を徴収し、その運営に充てている。